秋篠阿弥陀谷横穴墓群

調査成果　奈良市教育委員会では、令和元年7月22 日から奈良市秋篠町・敷島町内で大和中央道建設に係る発掘調査を実施してきました。調査地は従来から古瓦が採集され、奈良時代の遺物散布地として遺跡登録されていました。今回の調査の結果、飛鳥時代の横穴墓4基、奈良時代の古墓1基、室町～江戸時代の古墓5基を確認し、新たに秋篠阿弥陀谷横穴墓群・秋篠阿弥陀谷遺跡（仮称）と命名しました。

秋篠阿弥陀谷横穴墓群　「横穴墓」とは、丘陵斜面に横穴を掘り、遺体を埋葬する玄室をその奥に築く古墳～飛鳥時代の墓の一種です。奈良市の北西部から多数見つかっており、歌姫赤井谷横穴墓群・赤田横穴墓群などが知られています。また横穴墓内に土師質亀甲形陶棺を納める例が多く、この地域の豪族土師氏との関係を考える研究者もいます。

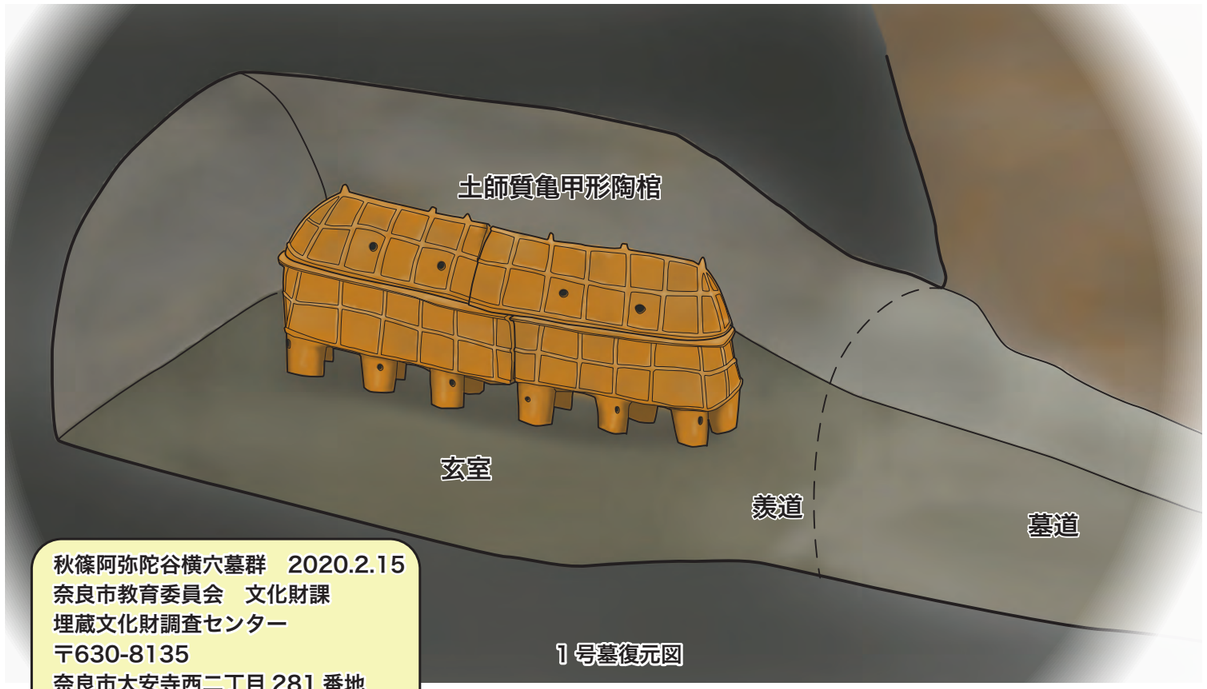
横穴墓群は西から東へのびる丘陵の南斜面が北に入り組んだ部分に築かれています。横穴墓はさらに東側へつづき、この入り組んだ部分を囲むように築かれていたと考えられます。

横穴墓は棺を納める玄室と、丘陵斜面を溝状に切り通して築く墓道、その間のやや幅の狭まった通路状の羨道から構成されています。玄室は羽子板状の平面形で、羨道部分を土で閉塞しています。墓道の大部分は発掘区外にあり、全体形が判明するものはありません。最も残りのよい2号墓では、全長 7.2m以上、玄室と羨道を合わせた部分の長さが 4.2m・幅 1.8m、墓道底部幅が 0.9mあります。玄室は天井が早くに崩れ落ちたようで、後世の盗掘を受けることなく、玄室内には陶棺が埋葬時のまま残っていました。

1・2号墓と3・4号墓の間に区画溝が一条あり、南北２群に分けられるようです。

各横穴墓の玄室からは陶棺が 1 基ずつ見つかり、さらに3号墓では副葬品の配置から木棺が2つあったと推定されます。2・4号墓の陶棺と 3 号墓の木棺からは、耳環が出土しています。これら横穴墓は出土土器から、7 世紀前半頃の時期に相次いで築かれたと考えられます。

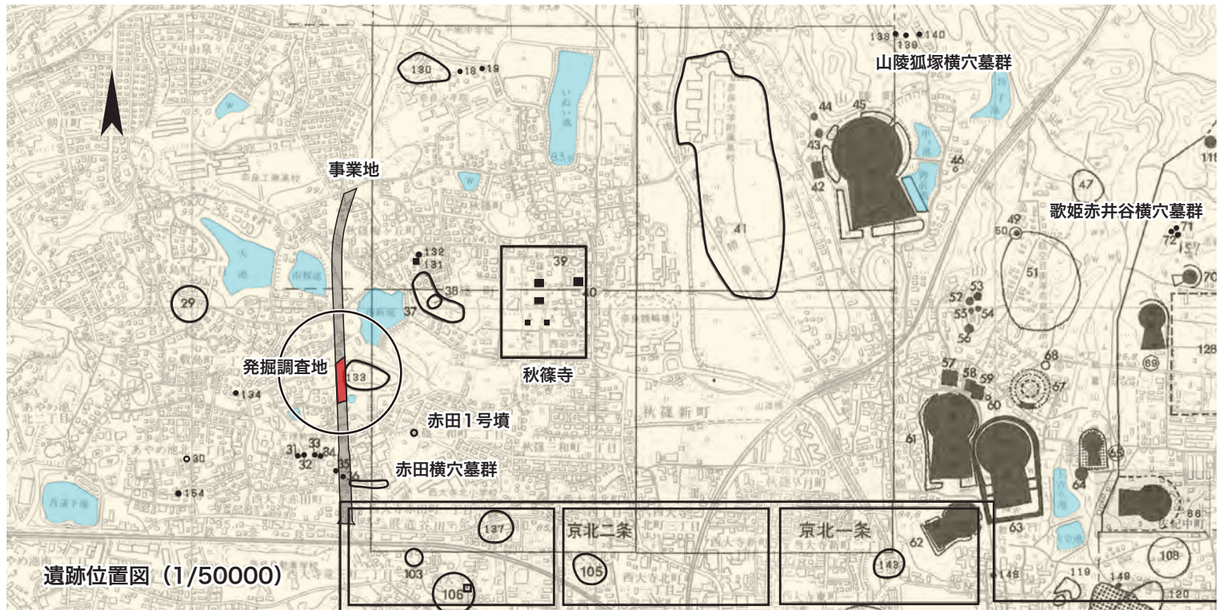
土師質亀甲形陶棺　陶棺は素焼きの土師質で、円筒形の脚が10～12 脚付いた箱形の棺身に、丸みをおびた屋根形の棺蓋がかぶせられています。棺身と棺蓋はいずれも中央で二分割されており、外面には突帯が貼り付けられています。1・3号墓では、棺蓋の透かし孔を陶製の栓で塞いでいます。4 号墓は棺身だけで棺蓋は見つかっていません。土師質亀甲形陶棺は、奈良市北西部にある6～7世紀の横穴墓などから多数見つかっており、この地域の特色となっています。



1 号墓復元図

秋篠阿弥陀谷横穴墓群　2020.2.15
奈良市教育委員会　文化財課
埋蔵文化財調査センター
〒630-8135
奈良市大安寺西二丁目 281 番地
TEL　0742-33-1821

横穴群全景（北から）

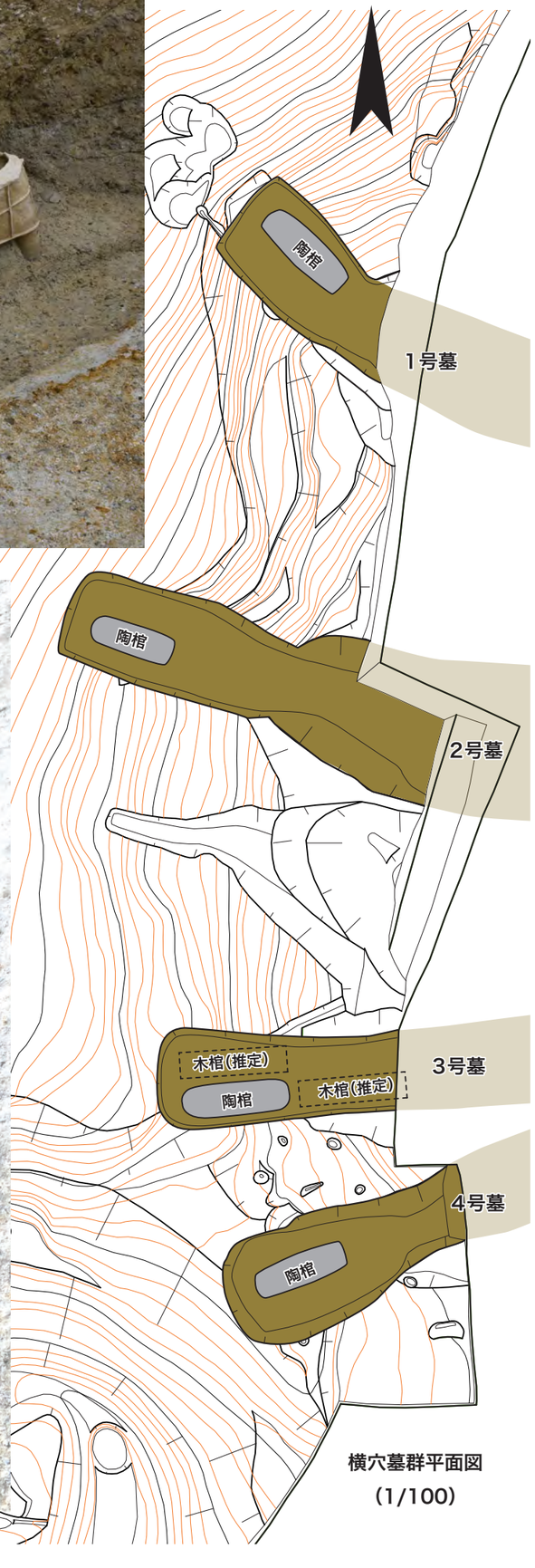


遺跡位置図（1/50000）

1号墓全景（西から）

発掘調査地平面図（1/500）

3号墓全景（東から）



横穴墓群平面図
（1/100）